

# ITU-R SG1会合の結果概要（WPT関連のみ）について

## 1. ITU-R SG1会合の概要

**日程・場所**：平成25年6月4日(火)～6月12日(水)(9日間)、スイス(ジュネーブ)で開催。

**目的**：SG1は、無線通信分野の周波数工学技術、管理方法、電波監視について審議を実施。

**参加者**：34か国から約120人参加。日本からは、菅田(総務省電波環境課)、小林(総務省参与)、石田(クアルコム・ジャパン)ほか 計14名が参加(敬称略)。

## 2. 会合の主な結果（WPT関連）

### ワイヤレス給電システム(WPT)の技術レポート草案等の検討

#### 【背景】

前回会合でWPTの研究課題が改訂され、2014年までに勧告/レポートを作成するとしたが、実質的な審議は未着手。国内では、「電波有効利用の促進に関する検討会」報告に記述されている2015年までの商用化を目指し、本年5月にWPTの制度化に向けた情通審での検討を開始。我が国としては、短期間での技術レポートの策定及び周波数の特定に向け、今会合で、国内の技術試験事務の結果等を入力し、ITUにおける議論の加速を図る。

#### 【結果】

2014年を目標とした今後の作業方針を策定するとともに、次回会合まで議論を深めるため、コレスポネンスグループ(CG、議長：米国)を設置。また、我が国の寄書等を元に、技術レポート草案の作業文書を作成するとともに、IEC等との連携強化等を図る連絡文書を発出。

一方、米国及び韓国が、モバイルデバイス用WPTの周波数を特定する勧告草案の骨格を提案したが、周波数特定の議論は時期尚早とするカナダ、英国が反発。議論の結果、我が国の主張するEV、家電用WPTを追加した作業文書が暫定的に承認され、上記技術レポート草案とともにCGで更に検討することとなった。なお、本勧告草案作成に関する各国の主な主張は次のとおり。

**米国、韓国**：モバイルデバイス用WPTについて、EV用等に先行して周波数特定のための勧告草案を作成すべき。

**カナダ、英国**：周波数特定のための勧告草案作成は、レポート草案の後にすべき。ISM帯以外の低い周波数帯では特に慎重な共用検討が必要。

**日本**：今会合で勧告草案の骨格を議論するのであれば、EV、家電用WPTも対象に含めるべき。